



TITLE:

京大広報 No. 588

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 588. 京大広報 2004, 588: 1645-1660

ISSUE DATE:

2004-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196512>

RIGHT:



京大広報

No. 588

2004. 3

目次

〈大学の動き〉

- 全学共通教育における
教務情報のIT化への取り組み……………1646
- 経営協議会学外委員及び理事候補者が内定…1647
- 平成16年度入学者選抜学力試験の
第1段階選抜状況……………1648
- 部局長の交替……………1649
- 名誉教授称号授与式……………1649
- 京都大学名誉博士称号贈呈式……………1650

〈部局の動き〉

- エネルギー系21世紀COEプログラムにより
タイ王国に海外研究拠点を設置……………1651
- 故上林彌彦前情報学研究科長追悼式……………1651

〈寸言〉

- 新たな出発に向けて（組織体としての京大は…）
岡 秀松……………1652

〈随想〉

- ホスピスは生きる場所である 人見滋樹……………1653

〈洛書〉

- 遺伝子の窓から 竹中 修……………1654

〈栄誉〉

- 広中平祐名誉教授がフランス共和国レジオン・
ドヌール勲章シュバリエを受章……………1655

〈訃報〉

- ……………1656

〈日誌〉

- ……………1657

〈話題〉

- マッケンジーライブラリーの開設……………1658
- 〈医療技術短期大学部の動き〉
中庭に学生のための憩いの場を設置……………1658
- 平成16年度専攻科助産学特別専攻
入学者選抜試験を実施……………1658

〈お知らせ〉

- くすのき絵画大賞……………1659
- 京都大学未来フォーラム（第1回）……………1660

〈編集後記〉

- ……………1660



拝師暢彦さん
『早春の時計台』
—関連記事 本文1659 ページ—

京都大学広報委員会
<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

全学共通教育における教務情報のIT化への取り組み

高等教育研究開発推進機構が発足して1年がたちました。新組織立ち上げに伴い生じた混乱も一段落して、機構の本来の目的である全学共通教育の改善・充実に向け、様々な取り組みが始まりました。

そのひとつとして、来年度を初年度として、全学共通科目にかかわる全ての教務情報をIT化するための情報システムの構築が始まります。これは、学生への情報伝達や学生の履修登録、さらには教官のシラバスやメッセージ入力などを電子化するものです。これまで、全学共通科目に係る休講情報、教室変更、学生呼び出しなどは、掲示板を通して学生に伝達してきました。しかしながら、7,000人を超える全学共通科目の履修登録者全てに対し、教務情報を迅速に伝達することは不可能に近いため、現場では様々な混乱が生じていました。一方、学生が選択する授業の履修登録に際しては、シラバス、履修方法などの登録作業に必要な膨大な情報が冊子体で学生に配付されるため、学生は必要とする情報の検索に多大な労力を要しています。その結果、履修登録の誤りも多く、学生はその修正のためにさらに多くの時間を割かなければならない状況です。また履修登録後の確認作業が面倒なため、登録した授業の確認を怠り、授業に毎回出席し試験も合格しているのに、登録手続きのミスのために単位が取得できないという事態も毎年生じています。

これは、単に学生の不注意ということで済まされるものではなく、手続き自体にミスを誘発する要因を含んでいることに問題があると思われます。近年、教務に関する情報量が格段に増えているにもかかわらず、従来の方法で情報を処理していることの弊害によるものといえるでしょう。機構においては、このような問題を解決するために平成16年度中に次のような教務情報のIT化を図ります。システムの構築に当たっては、単純に電子化すればすべてが解決するわけではないので、時間をかけて学生の意見を聞きながら平成17年度以降も総合的なIT化へ向け作業を進める予定です。

○新電子掲示板システムの運用

平成16年4月から、プラズマディスプレイの掲示板に、休講情報、補講情報、教室変更、教官変更、曜日時限変更、試験情報、学生の呼び出し情報、緊急情報を掲示する。

○WEB掲示板の公開

平成16年4月から、電子掲示板と同じ内容+αをWEBページで公開する。情報伝達方法は、通常のWEBページ、携帯用WEBページなど、複数のメディアを用意する。

○全学共通科目学生用マイページの開設

平成16年度前期中に、時間割情報を入力して学生個別の情報伝達システム(全学共通科目マイページ)を開設する。このマイページにより個人が必要な情報だけを見ることができる。また、メールによる情報の伝達も可能となる。

学生が、毎日このマイページを必ず見るように推奨することが重要となる。平成17年度から導入予定のWEB履修登録もこのマイページから行うこととなる。

マイページのWEB画面



○電子シラバス

平成16年4月から、検索可能なシステムとしてシラバスをWEB公開する。

○オンライン履修登録及び履修調整システムの試験運用

平成16年度後期から平成17年度導入予定の WEB オンラインによる履修登録の試験運用を開始する。



※アクセス方法

WEB 掲示板及びシラバスは学内からのアクセスのみ可能。学外からのアクセスは全学共通科目専用 ID・パスワードを使って可能とする。学生用マイページへは各学生の全学共通科目専用 ID・パスワードを使ってアクセスする。

問い合わせ先：共通教育推進部第一共通教育教務掛

TEL 753-6509

(高等教育研究開発推進機構)

経営協議会学外委員及び理事候補者が内定

2月24日（火）開催の評議会において国立大学法人法第20条第2項第3号の規定による経営協議会の学外委員候補者12名が承認され、内定した。経営協議会は本年4月の国立大学法人化に伴い、予算や大学経営の重要事項を審議する機関として設置される。

また、3月9日（火）開催の評議会において国立大学法人法第13条の規定による理事候補者7名（内学外者1名）が承認され、内定した。

任期は経営協議会学外委員が4月1日から2年間、理事が4月1日から平成17年9月30日まで。

経営協議会の学外委員候補者		
氏 名	現	職
石 井 米 雄	神戸外語大学長	
井 手 正 敬	西日本旅客鉄道(株)	取締役相談役
大 南 正 瑛	京都橘女子大学長	
北 城 恪太郎	日本アイ・ピー・エム(株)	代表取締役会長 (社)経済同友会代表幹事
熊 谷 純 三	鳩居堂製造(株)	代表取締役社長
佐 村 知 子	京都府副知事	
田 村 和 子	(社)共同通信社客員論説委員	
野 村 明 雄	大阪ガス(株)	代表取締役会長
八 田 英 二	同志社大学長	
松 本 和 子	早稲田大学理工学部教授 総合科学技術会議議員	
村 田 純 一	村田機械(株)	代表取締役会長 京都商工会議所会頭
吉 田 修	奈良県立医科大学長	

※50音順

理事就任予定者と職務分担		
担 当	氏 名	特命事項
企画・評価 担当	金 田 章 裕 (現職：副学長)	資源配分 大学情報収集・分析センター
教育・学生 担当	東 山 紘 久 (現職：副学長)	全学共通教育
施設・研究・ 国際交流担当	入 倉 孝次郎 (現職：総長補佐)	宇治キャンパス 附置研究所
総務・人事・ 広報担当	本 間 政 雄 (現職：事務局長)	事務総合調整 事務合理化 電子事務局
法務・安全 管理担当	田 中 成 明 (現職：法学研究科・教授)	人権
財務・情報 基盤担当	辻 文 三 (現職：総長補佐)	桂キャンパス
病院担当	*佐 古 伊 康 (医仁会武田総合病院長)	

*非常勤・学外理事（医仁会武田総合病院院長、(助)しずおか健康長寿財団理事長）

平成16年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜状況

平成16年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜が行われ、2月12日（木）、選抜結果が志願者に通知された。
学部別の合格者数は次表のとおりである。

学 部			募集人員	志願者数	志願倍率	第1段階選抜		第1段階選抜 の予告倍率	
						合格者数	倍 率		
総合人間学部	前期 文系	前	110 ^人	377 ^人	3.4 ^倍	365 ^人	3.3 ^倍	—	
		後	55	200	3.6	192	3.5	(注1)	
		後	55	177	3.2	173	3.1	(注2)	
	後期	後	20	366	18.3	321	16.1	約12.0倍	
文学部	前期	前	190	629	3.3	627	3.3	約3.5倍	
教育学部	前期	前	30	430	14.3	306	10.2	約5.0倍	
	後期	前	40	162	4.1	162	4.1	約3.5倍	
法学部	後期	後	20	189	9.5	148	7.4	約5.0倍	
	前期	前	300	905	3.0	905	3.0	約3.5倍	
経済学部	前期 一般文 論	前	10	411	41.1	287	28.7	約8.0倍	
		後	210	890	4.2	823	3.9	—	
		後	160	573	3.6	573	3.6	約3.5倍	
	後期	後	50	317	6.3	250	5.0	約5.0倍	
理学部	後期	後	20	588	29.4	588	29.4	約7.0倍	
	前期	前	271	841	3.1	826	3.0	(注3)	
医学部	前期	後	30	882	29.4	869	29.0	(注4)	
		後期	前	213	554	2.6	473	2.2	—
	医学科	後	30	397	13.2	259	8.6	—	
		後期	前	90	352	3.9	271	3.0	約3.0倍
	保健学科	後	10	238	23.8	100	10.0	約10.0倍	
		後期	前	123	202	1.6	202	1.6	—
	看護学専攻	後	20	159	8.0	159	8.0	—	
		後期	前	63	90	1.4	90	1.4	約3.0倍
	検査技術科学専攻	後	7	55	7.9	55	7.9	約5.0倍	
		後期	前	30	55	1.8	55	1.8	約3.0倍
	理学療法専攻	後	7	59	8.4	59	8.4	約5.0倍	
		後期	前	15	34	2.3	34	2.3	約3.0倍
	作業療法専攻	後	3	28	9.3	28	9.3	約5.0倍	
		後期	前	15	23	1.5	23	1.5	約3.0倍
薬学部	後	3	17	5.7	17	5.7	約5.0倍		
	後期	前	70	244	3.5	243	3.5	約3.5倍	
工学部	前期	後	10	147	14.7	146	14.6	約10.0倍	
		後期	前	857	2,323	2.7	2,322	2.7	約3.0倍
	地球工学科	後	98	1,006	10.3	806	8.2	—	
		後期	前	166	449	2.7	449	2.7	—
	建築学科	後	19	293	15.4	231	12.2	約12.0倍	
		A選抜 B選抜	後	72	272	3.8	272	3.8	—
			後	8	147	18.4	64	8.0	—
		物理工学科	後	4	83	20.8	40	10.0	約10.0倍
	後期		前	4	64	16.0	24	6.0	約6.0倍
	電気電子工学科	後	211	558	2.6	558	2.6	—	
		後期	前	24	181	7.5	181	7.5	約8.0倍
	情報学科	後	117	291	2.5	291	2.5	—	
		後期	前	13	96	7.4	91	7.0	約7.0倍
	工業化学科	後	81	185	2.3	184	2.3	—	
		後期	前	9	89	9.9	89	9.9	約8.0倍
	農学部	前期	後	210	568	2.7	568	2.7	—
後期			前	25	200	8.0	150	6.0	約6.0倍
後期		後	233	670	2.9	670	2.9	約3.5倍	
		後	67	743	11.1	742	11.1	—	
		後	19	166	8.7	166	8.7	約10.0倍	
		後	9	168	18.7	168	18.7	約10.0倍	
		後	11	88	8.0	88	8.0	約10.0倍	
		後	9	91	10.1	90	10.0	約10.0倍	
後	12	193	16.1	193	16.1	約10.0倍			
後	7	37	5.3	37	5.3	約5.0倍			
合 計			2,829	12,754	4.5	11,888	4.2	—	
			前	2,494	7,595	3.0	7,416	3.0	—
			後	335	5,159	15.4	4,472	13.3	—

- (注1) 総合人間学部前期(文系)は、大学入試センター試験の5教科6科目の合計得点が800点満点中550点以上の者を第1段階選抜合格者とする。
- (注2) 総合人間学部前期(理系)は、大学入試センター試験の5教科7科目の合計得点が900点満点中620点以上の者を第1段階選抜合格者とする。
- (注3) 理学部前期は、大学入試センター試験の5教科7科目の合計得点が900点満点中600点以上の者を第1段階選抜合格者とする。
- (注4) 理学部後期は、大学入試センター試験の3教科3科目の合計得点が500点満点中300点以上の者を第1段階選抜合格者とする。
- 備考 下記外国学校出身者のための選考の最終合格者が募集人員に満たない場合には、その不足数を法学部(後期)10名、経済学部(後期)20名の募集人員に加える。

〔外国学校出身者のための第1次選考実施状況(外数)〕

学部名	募集人員	志願者数(倍率)	第1次選考合格者(倍率)
法 学 部	20人以内	32人(1.6倍)	18人(0.9倍)
経 済 学 部	10人以内	24人(2.4倍)	11人(1.1倍)

部局長の交替

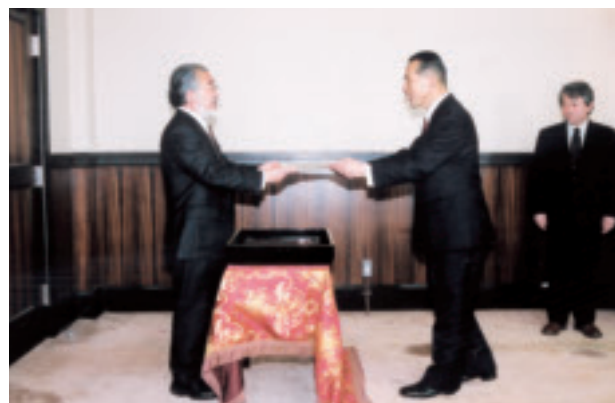
情報学研究科長

船越満明情報学研究科教授(複雑系科学専攻複雑系力学講座担当(非線形力学))が、上林彌彦情報学研究科長の死去に伴う後任として、平成16年3月1日付けで任命された。任期は平成18年2月28日まで。



名誉教授称号授与式

2月23日(月)午前11時から百周年時計台記念館迎賓室(旧総長室)において、尾池和夫総長、金田章裕、東山紘久両副学長、塩田浩平、入倉孝次郎、辻文三各総長補佐、本間政雄事務局長、部局長等関係者出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行政され、尾池総長から長尾真前総長に、称号が授与された。



京都大学名誉博士称号贈呈式

2月3日（火）午前10時30分から時計台記念館迎賓室（旧総長室）において、尾池和夫総長，東山紘久副学長等関係者出席のもとに京都大学名誉博士称号贈呈式が挙行され，米国ロチェスター大学名誉教授ライオネル W. マッケンジー氏に，京都大学名誉博士の称号が贈呈された。

同氏は，1939年デューク大学経済学部卒業後，1956年に米国プリンストン大学経済学研究科において経済学博士（Ph. D）の学位を取得し，その後ロチェスター大学経済学部等において教育研究に従事された。

また，贈呈式の当日，時計台記念館国際交流ホールにおいて学内外関係者約70名の参加を得て，同氏の記念講演会・祝賀会が行われた。講演会では「黎明期のロチェスター大学経済学部」の演題で講演があり，参加者は熱心に聞き入った。

講演会終了後祝賀会が開催され，佐和隆光経済研究所長の挨拶，マッケンジー氏のスピーチの後，尾池総長の発声で乾杯した。参加者の和やかな歓談のなか，ロチェスター大学経済学部のロナルド・ジョーンズ教授，経済研究所の西村和雄教授の祝辞が述べられるなど，盛況のうちに幕を閉じた。



マッケンジー氏は，米国デューク大学に就任以来，ロチェスター大学に移籍の後も，数理経済学なかでも一般均衡理論，国際貿易モデル，経済成長モデルの理論的研究に従事し，多年に亘り優れた研究業績を挙げると共に，内外の数理経済学者の育成にも大きく貢献した。



同氏の研究は，一般均衡理論の分野においては，一般的な条件のもとで均衡の存在を初めて証明し，国際貿易理論の分野においては，多数国の貿易パターンの決定に先駆的かつ本質的な分析を与えるという貢献を成した。さらに，経済成長理論の分野において，経済成長のターンパイク経路の存在の正確な条件を与え，それ以降も経済動学の分野の研究を先導し続けた。同氏の研究は，経済理論のみならず，数学や工学の分野にも大きな影響を与えている。1995年にはその功績により，日本政府から勳三等旭日中綬章を授与された。

同氏は，1957年のロチェスター大学赴任以来，ロチェスター大学を退職するまでの実に32年の長きに亘り，本学出身者を含む我が国からの大学院生の指導を行い，多くの研究者を育成した。2003年には，本学経済研究所に多数の蔵書を寄贈し，本学における教員や学生の研究に永続的な指針となる基盤を形成した。

…これまでの名誉博士は，本学における学術研究に寄与した功績が特に顕著であると認められる者に限定していたが，学術研究の国際化の一層の進展が予想され，京都大学の学術交流研究の一層の推進を図る観点から見直しを行い，今後は本学における教育研究に寄与した功績が特に顕著であると認められる者や学術文化に寄与した功績が特に顕著であり，本学において顕彰することが適当と認められる者も贈呈対象とし，称号の名称についても，分野ごとに区分されていた称号を「京都大学名誉博士」に統一し，今回新制度の第一号として贈呈されたものである。

部局の動き

エネルギー系21世紀 COE プログラムによりタイ王国に海外研究拠点を設置

21世紀 COE プログラム「環境調和型エネルギーの研究拠点形成」(拠点リーダー笠原三紀夫エネルギー科学研究科長)の構成部局であるエネルギー系のエネルギー科学研究科, エネルギー理工学研究所, 宙空電波科学研究センターが, エネルギー分野での東南アジア諸国との共同研究・人材育成の推進を図るべく, 海外研究拠点をタイ王国のバンコク市内スクンビット地区のウインザー・タワーコンドミニアムビル21Fに設置し, 11月21日(金)に開所式を行った。また同日, 同国のエネルギー分野の研究実験の推進を図るべく現地のラジャマンガラ工科大学に国際共同実験施設を開設した。

なお, 前日の11月20日(木)には, 海外研究拠点の開所を記念して, 「環境調和型エネルギーシステム」タイ研究拠点開所記念シンポジウムを開催した。この研究拠点の開所式には, チャラム・ムティコラジャマンガラ工科大学副学長ほかタイ王国大学関係者, 同国政府関係者, 在タイ王国日本国大使館関



係者, 塩田浩平総長補佐, 笠原三紀夫エネルギー科学研究科長, 吉川 潔エネルギー理工学研究所長, 松本 紘宙空電波科学研究センター長など本学関係者らが多数出席して, 盛大に一連の行事が挙行された。

(エネルギー科学研究科, エネルギー理工学研究所, 宙空電波科学研究センター)

故上林彌彦前情報学研究科長追悼式

去る2月6日に逝去された上林彌彦前情報学研究科長の追悼式が, 情報学研究科主催により, 3月1日正午から午後1時30分まで京都大学百周年時計台記念館大ホールにおいて約500名の参列を得て執り行われた。

式は, 船越満明情報学研究科長の挨拶に始まり, 参列者全員による黙祷の後, 尾池和夫総長代理金田章裕副学長, 安西祐一郎慶応義塾長, Franco Preparata ブラウン大学教授, 牛島和夫九州大学名誉教授, 院生代表手塚太郎氏による追悼の詞, 池田克夫京都大学名誉教授, 西尾章治郎大阪大学教授, 松本 紘宙空電波科学研究センター長による故人追憶, ご夫人の上林紀子氏の挨拶と続き, 最後に献花

を行い, 在りし日の上林前情報学研究科長を偲んだ。
(大学院情報学研究科)



寸言

新たな出発に向けて
(組織体としての京大は…)

岡 秀松

時計台記念館の改修が完成した。京大100周年記念事業の一つの柱である。ご厚志をいただいた卒業生や教職員、関係企業などの熱い思いが伝わってくる。正面から見た姿は変わっていないが、内容は、21世紀に向けての京大の門出

を祝うかのように、20世紀の歴史の場所から変じて、学术交流、国際交流の新たな場を提供するものとなる。奥田元宋画伯によって描かれた、鮮やかな紅に



染まった時計台のように、その時々学生、卒業生にとって、いろんな思いが残る場所、その新たな出発である。

新たな出発は、時計台記念館だけではない。法人化後の大学自体がそうである。私が、組織体としての京大を意識し始めたのは、この10年ぐらいのことである。100周年記念事業のお手伝いを始めて、多くの関係先とのご縁ができ、接点が増えるたびに、その“巨大さ”を感じさせられてきた。また、京都大学教育研究振興財団の助成事業の選考に関与してみて、学問研究の多彩な内容に感嘆を禁じえなかった。この広報誌の読者がどの程度御覧になっているかわからないが、京大のホームページを見ると、こうしたことがよく分かる。年間の歳出総額1,300億円強、蔵書数600万冊、学生数22,000人など、驚くばかりの数字が目につく。規模の大きさだけではない。その多様性、知の拠点としての厚み、歴史性など、じっくり眺めていると、まさに圧倒される感がある。こうした京大の全体としての実像とそのもっている影響力について、学内にいる方、これから学ぼうとする人々が、どれほど理解し、意識し、社会との関係において役立てようとしているのだろうか。

卒業生としての思いは、これまで、多くの先輩方が述べられていて、付け加えることもほとんどない。

しかし、組織体としての京大を見たときには、多くの心配もある。他の大学との比較で言うことではなく、リーダー的存在である京大自身の問題としてである。中から見たものではないので限界は承知しているが、どうも組織体としての一貫性が備わっていないような感じがしている。



「学問の自由な発展」、「知の創造」など、大学を形容する美しい言葉には事欠かないが、いまの時代に向けての、京大として独自の、大学人の心意気を示すような積極的な提言、主張を、あまり目にしないような気がする。企業などのような組織体と違って、組織体としての大学の内容は複雑で、多様性に富んでおり、簡単でないことはよく理解できるが、それにしても…という感じである。大学人の本音のところはどうであろうか。外部からの意見はよく目にする（例えば、「21世紀における大学の在り方」；総合人間学部：「外側から見た大学」座談会など）が、組織体としての“自ら、こうありたい、こうする”という意味は、法人化後の中期目標・中期計画などに示されていると思うのだが、その内容は、本当に満足なものと言えるだろうか。

いま、日本の大学、特に国立大学は、大きな岐路に立たされているわけだが、京大は、通常感覚では、現状継承でもそう問題はなさそうに思える。だが、世界を眺め渡したときの問題はそうではない。多くの先生方は、その危機感を直截に述べられることが多い。そうした心情が、大学全体の、組織としての意識に表れているかが問題の焦点である。大学マネジメント部門の明確なリーダーシップと、大学に身を寄せる全員の強い意識が問われているように思う。こうした大学の変貌が明らかに見える京大像を提示してこそ、社会で活躍する卒業生にとっても、嬉しく、心の支えとなる母校を持ったという実感を味わえることになるのではなかろうか。

(おか ひでまつ 昭和31年 法学部卒)

随想

ホスピスは生きる場所である

名誉教授 人見 滋樹

1999年に京大総長特別補佐（現副学長相当職）の瀬地山敏教授の奥様の滯子様（NHKチーフディレクター）を京大呼吸器外科で受け持たせて頂いた。私が胸部研所長時代のことである。進行肺がんのため治癒を目指す治療法は無かった。教授回診でもゆっくりお話する時間も取れなかった。京大病院では就臥し死を待つのみであったと思われるが、京都バプティスト病院のホスピス転院後に、河合隼雄先生がお見舞いに行かれ、何かしたいことは無いかとお尋ねになり、奥様は自分の研究の集大成をしたいと答えられた。腕がほとんど動かない状態であったが、河合先生はやりなさいと励まされた。それからスタッフとご主人の協力が始まった。パソコンが打てるように腕を天井から吊り下げた。ご主人は資料を自宅から病室へ運ばれた。6ヶ月後に「利休・茶室の謎」（創元社）を見事に書き上げられ、完成後に安らかに生を終えられた。私はホスピスは死を待つ所ではなく、生きいきと生きる場所であることを教えられた。京大病院ではこのような支援をすることが出来ない。急性期病院の宿命である。瀬地山先生からご本を戴き、先生のあとがきの言葉から一部始終を知り、夫婦愛についても心を打たれ、私は京大退職後はホスピス運動をしようと心に決めた。

世界で最初のホスピスが設立されたのは1967年のことで、ロンドン郊外にシシリー・ソンドース博士がセント・クリストファ・ホスピスを設立した。しかし治癒の為の治療法が無くなった進行した病気の患者ばかりを入院させるホスピスの必要性が認められるまでの道のりは決して安易なものではなかった。

西ドイツアーヘン・ホスピス設立反対運動

1978年に西ドイツアーヘンにドイツ最初のホスピス設立が企画されたが、当初は医師会、看護協会、保険会社、地元住民の92%が反対するというホスピス設立反対運動が起こった。その反対理由は、①末期患者をゲッター（強制収容所）に入れることにな



高槻赤十字病院緩和ケア病棟
第一回癒しと安らぎの環境賞最優秀賞受賞
審査委員長：日野原重明先生

らないか。②医師の為によくない。医師は患者を生かすのが仕事である。ホスピスは死だけの研究と仕事である。③看護師の為によくない。患者が元気になって退院する体験が看護師に重要であり、死に行く患者のみを見る仕事は無力感、ストレス、燃え尽き症候群の原因となる。④患者の為によくない。患者を絶望に追いやる。⑤環境を破壊する。死を子供に見せるのはよくない。以上のような反対理由であった。

正しい緩和医療が行われることにより、アーヘンのホスピス設立反対の理由が全く的を得ず杞憂であったことが明らかとなる。

緩和ケアが目指すものとその必要性

①癌という病名を告げられたときから、患者には緩和ケアが必要となる。フォローが必要なのである。②疼痛から患者を解放することが最も大切なことである。専門医によれば疼痛緩和の成功率は極めて高い。身体的苦痛が除去されると目標を立てて生きる意欲が湧いて来る。③精神的苦痛の緩和には、患者の人生観、宗教観、家族関係、経済問題、職業上問題などの理解が必要である。臨床心理学者、精神科医、宗教家などの参加が必要となる。④ホスピスは明るく生きる人々が住む場所である。子供達にその様子を見て欲しい。

現実には、日本にはホスピスは少なく一年間の癌死亡30万人の内、緩和ケア病棟で死を迎えることが出来るのは、僅か3%弱の7,000人に過ぎない。

高槻赤十字病院院長に就任し、2002年にホスピスを開設することが出来た。光栄なことに、日野原重明先生が審査委員長の第一回「癒しと安らぎの環境賞、最優秀賞」を受賞することが出来た。今後ともソフト面、ハード面ともに一層患者に喜んで頂ける医療に努めたいと存じている。

（ひとみ しげき 元医学研究科教授、平成11年退官、専門領域は呼吸器外科・肺がん・肺移植）

洛書

遺伝子の窓から

竹中 修



DNAの二重らせん構造の発見から半世紀が経過し、ヒトのゲノムの全容も明らかにされた。今回DNAはDNAでも少し変わったお話をしたい。私が大学院に入り研究を始めたのは40年も前のことで、タンパク質の立体構造がテーマで対象はウシ臍臓のリボ核酸分解酵素であった。ウシの臍臓を分けてもらい、すり潰すことから始まる。複数の前処理の後、カラムクロマトグラフ法により最終的に目的の酵素を精製するのであるが、そこにいたるまで大変な労力を要した。生体物質を対象とした生化学では、自分の必要とする物質を得るために、必要としない物質を除いて、除いて最後に目的物質にいたる。

これに対してDNAに関する研究では自分の必要とする遺伝子なりDNA断片を増やして得る。大腸菌を形質転換して増やしたり、いわゆるPCR法というプラスチックチューブの中で温度制御により十万倍くらいに増幅する。結果として最初にあった自分の必要としない部分は無視することが出来る。1980年代に次々にキット化され、マニュアルが出来ているので少し基礎知識があれば誰にでも研究を進める事が出来るのも特徴といえる。

さて1980年代前半に「生物の適応戦略」という大きなプロジェクト研究が進行していた。動物個体間の血縁が明らかになれば彼らの行動をより深く理解することが出来るという考え方が提唱された。1985年にゲノムの中に非常に変化しやすい領域が発見され、DNAフィンガープリント法と名づけられた。われわれはニホンザルの群れに応用した。ニホンザルの研究が開始されて40年が経過していたが、父親と子供の関係は推測するしかなかった。複数のオスと複数のメスが群れを作り乱婚的な繁殖構造をとり、メスと違ってオスは子育てに関与しないからである。霊長類研究所内のコンクリートの壁で囲われた約500㎡に約50頭のニホンザル群が飼育されていた。

全個体のDNAを分析し父親を決めた。その結果、1)ニホンザルオスの間には年功序列を基本とする比較的安定な順位がある。交尾そのものは社会順位と相関するが、残した子供の数には反映しない。1, 2, 3位のオトナオスが残した子供数はほぼ等しい。2)メスは子供の父親を変えている。3)オスは自分の母親を軸とした家系のメス、母親、姉、妹、姪との間には子供を作っておらずインセスト回避の傾向が見られる。交尾は観察されているのでメカニズムは不明である、などの新事実が明らかになった。

DNAを増やして分析すると上に述べた。一時的に捕獲し血液を採取しなくても極微量の細胞ないし死んだ細胞でも可能であることもわかった。体毛、糞、尿、動物にサトウキビのような繊維に富んだ植物を与え、しがんで吐き出したシガミカスでも可能であることもわかった。対象も霊長類であるチンパンジーを初めとして、イルカ、1グラムにもみたないアリ、マイマイガ、卵塊を守るオスの魚と卵の血縁関係、海産のマキガイ。方法論はほとんど同じなのであとは腕力のみ。

遺伝子の窓を通じていろいろな動物の生態や行動が覗けるようになっている。

(たけなか おさむ 霊長類研究所教授 専門は霊長類分子生物学)

栄誉

広中平祐名誉教授がフランス共和国レジオン・ドヌール勲章シュバリエを受章

広中平祐名誉教授がフランス政府からレジオン・ドヌール勲章シュバリエを叙され、1月21日に在日フランス大使館において叙勲式が執り行われました。レジオン・ドヌール勲章は1802年にナポレオン・ボナパルトによって創始された由緒あるものです。



同名誉教授は、昭和29年京都大学理学部数学科を卒業、同31年に同大学院理学研究科修士課程修了、同年4月博士課程進学の後、同32年9月よりハーバード大学大学院に入学し同35年 Ph.D. を取得、同年よりブランダイス大学講師、助教授、准教授を経て、同39年コロンビア大学教授、同43年ハーバード大学教授を歴任した後、同50年11月京都大学数理解析研究所教授に就任され、同58年4月より同60年1月まで、同研究所所長及び京都大学評議員を務め、同63年10月京都大学教授を退職されました。退官後、平成3年京都大学名誉教授の称号を受けられ、同年5月より財数理科学振興会理事長、同8年5月より同14年5月まで山口大学学長を務められました。

同名誉教授は京都大学大学院在学中より代数幾何学を専攻され、1964年には代数多様体の特異点解消というこの分野の基本問題を解決し、その後もこの

方面の深い理論を構築されました。数学におけるこれらの業績により学士院賞およびフィールズ賞（共に1970年）を受賞されています。

同名誉教授は米ハーバード大学の大学院生であった1959年、パリ郊外に創立されたばかりの高等科学研究所（略称 IHES）に最初の外国人研究員として Grothendieck 教授より招待されました。また、1967-1968年の第2回滞在では『フランス特異点学派』の創始において中心的役割を担われました。数名のスタッフで始まった高等科学研究所は現在ではフィールズ賞や京都賞受賞者を多数かかえる欧州での数学研究拠点の一つに育っています。この研究グループからは欧米各地や京都における研究交流を通じて数代にわたって優秀な研究者が輩出されています。

また、同名誉教授が創設された財数理科学振興会は、IHES に対して日本人研究員の滞在費を助成する等、国際交流のさらなる発展に多方面から寄与し続けています。

このたびの叙勲は同名誉教授のこのような学問的寄与とともにそれと不可分の関係にある国際交流、特に日仏学術交流における実績を高く評価されたものです。

（数理解析研究所）

訃報

このたび、^{ふじた しげお}藤田茂夫工学研究科教授、^{くにちかさん ご}國近三吾名誉教授、^{かんばやし や ひこ}上林彌彦情報学研究科教授が逝去されました。
ここに、謹んで哀悼の意を表します。
以下に各氏の略歴、業績等を紹介します。

藤田 茂夫 工学研究科教授



藤田茂夫先生は、1月9日逝去された。享年62。

先生は、昭和41年京都大学工学部を卒業後、同大学院修士課程を経て、同50年京都大学工学博士の学位を授与され

た。昭和44年京都大学工学部助手に採用、同56年同助教授、同60年同教授に就任された。この間、昭和54年～55年には、ノースカロライナ州立大学に客員助教授として滞在され、半導体結晶成長の研究に従事された。

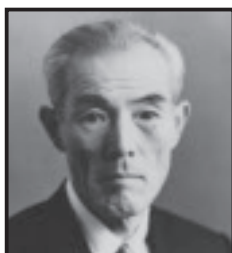
広禁制帯Ⅱ－Ⅵ族半導体およびⅢ－Ⅴ化合物半導体の結晶成長と光物性評価にすぐれた業績を上げられ

るとともに、当該分野の教育に力を注ぎ数多くの研究者・教育者を輩出された。また、学内交通問題委員会委員長として本部構内における交通問題への対応、桂新キャンパスの立地やLED時計台設置などに尽力された。

先生は、応用物理学会理事、照明学会理事・関西支部長、第9回Ⅱ－Ⅵ族化合物半導体国際会議組織委員長、稲盛財団第17回京都賞先端技術部門専門委員など国内外の各種委員会委員を務められ、平成15年には日本学術振興会・光電相互変換第125委員会から功労賞を授与された。

(大学院工学研究科)

國近 三吾 名誉教授



國近三吾先生は、1月28日逝去された。享年94。

先生は、昭和10年3月京都帝国大学理学部を卒業後、同大学理学部副手、化学研究所助手、理学部助手、同講師、

化学研究所助教授を経て、同26年2月京都大学化学研究所教授に就任された。昭和47年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。また、昭和47年10月から同55年3月まで岡山理科大学理学部教授として教鞭をとられた。

先生の専門は有機化学で、昭和初期に有用な有機化学工業資源として注目されていたアセチレンの利用研究を行われ、この分野での先駆的役割を果たさ

れた。また、石油化学工業の発展に伴い、アセチレンに代わる安価な資源としての低級オレフィン類の高分子単体としての利用開発を研究され、多くの注目される成果を挙げられた。

先生は昭和39年12月から同42年12月まで、および同45年12月より同47年3月までの2回にわたって化学研究所長を務め、研究所の管理運営に当ると共に評議員として大学全体の管理運営に参画し、京都大学ならびに化学研究所の発展に尽くした功績は極めて大きいものがある。なかでも化学研究所の大阪府高槻市から京都府宇治市への移転計画に当っては、数多くの問題と対処し、その実現に多大の功績をされた。

(化学研究所)

上林 彌彦 情報学研究科教授



上林彌彦先生は、2月6日逝去された。享年60。

先生は、昭和40年京都大学工学部を卒業後、同大学院工学研究科修士課程を経て、同博士課程を単位修得退学、同45年9月京都大学工学博士の学位を授与された。昭和45年4月京都大学大型計算機センター助手、同46年2月イリノイ大学リサーチアソシエイト、同48年3月京都大学工学部情報工学科助手、同年12月同講師、同51年10月同助教授を歴任した後、同59年4月九州大学工学部情報工学科教授に就任された。その後、平成2年7月京都大学工学部附属高度情報開発実験施設教授、同7年8月京都大学工学部教授、同8年4月同大学院工学研究科情報工学専攻教授を経て、同10年4月同大学院情報学研究科社会情報学専攻教授に就任、この間、同14年4月より京都大学評議員、同15年4月より京都大学大学院情報学研究科長を務められた。また、この間、カナダマギル大学客員教授、クウェート大学客員教授、中国武漢大学兼職教授及び客座教授、関西大学客員教授を歴任された。また京都大学21世紀COEプログラム「知識社会基盤構築のための情報学拠点形成」の拠点リーダーとして活躍された。

先生は、イリノイ大学の室賀三郎教授とともに、

集積回路設計の中心となる論理設計において、今日世界的に使われている「トランスダクション法」の概念を、まだCADが普及していなかった1971年から二年間の滞米期間に確立した。また、オートマトン・言語と計算量理論、関係データベース理論においても重要な功績がある。応用面では、70年代の計算機ネットワーク、80年代初頭の文献検索システム、80年代後半から現在に至るまで地理情報データベース、データベース概念を応用したグループウェアなど、先駆的なシステムを開発されている。これらの功績により、IEEE（電気電子学会）フェロー、情報処理学会フェロー及び電子情報通信学会フェローに選出された。さらに世界各国のデータベース研究者に働きかけ、数多くの国際会議の創設・開催や学術雑誌の刊行を行い、この分野の発展に大きく貢献したことにより、ACM SIGMOD Contribution Awardを受賞された。

また、日本学術会議情報学研究連絡委員及び工学教育研究連絡委員会委員、総務省総合科学技術会議専門委員会委員、文部省高等教育局大学設置・学校法人審議会専門委員、電子情報通信学会情報システムソサイエティ会長、日本データベース学会初代会長、情報処理学会理事、京都高度技術研究所副所長などを歴任された。

(大学院情報学研究科)

日誌 2004.1.1 ~ 1.31

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1月5日 新年名刺交換会 | 22日 大学入試センター試験実施委員会 |
| 13日 評議会 | 23日 博士学位授与式 |
| 保健衛生委員会 | 24日 大学入試センター試験追試験(25日まで) |
| 教育研究振興財団助成事業検討委員会 | 26日 総長交渉 |
| 16日 同和・人権問題委員会 | 27日 評議会 |
| 17日 大学入試センター試験(18日まで) | 28日 環境保全委員会 |
| 19日 学生部委員会 | 30日 外国人研究者との交歓会 |
| 21日 国際交流会館委員会 | |
| 国際交流委員会 | |

話題

マッケンジーライブラリーの開設

このほど、京都大学名誉博士の称号を贈呈されたライオネル W. マッケンジー氏より2003年10月、膨大な蔵書が経済研究所に寄贈され、本学における教



員や学生の研究に永続的な指針となる基盤が形成された。京都大学では、総長名による感謝状を贈呈して感謝の意を表すとともに、経済研究所内に、寄贈された2,200冊を超える経済学に関する書物や論文等を展示する「マッケンジーライブラリー」を開設した。

同氏は、1950年代から活躍してきた経済学の巨人の一人で、そのような研究者の蔵書を保管することは、経済理論の発展の足跡をたどることができるという点で大きな意味がある。ライブラリーには、書き込みがされている蔵書や、また論文の抜き刷りや他の研究者から送られてきた論文にコメントを書き込んだものも多くある。本学の研究者や学生にとっても、貴重な資産となろう。

(経済研究所)

医療技術短期大学部の動き

中庭に学生のための憩いの場を設置

医学部保健学科・医療技術短期大学部は快適な教育環境の整備に向けて中庭整備計画の一部として、同部中庭に学生の団らんの場となる樹木・植栽・テーブル・ベンチを設置した。

また、1月14日（水）には中庭整備を記念して教員と学生との交流会を開催した。出席者からは、屋外に憩いの場ができたことで、リフレッシュができると喜びの声があがった。



平成16年度専攻科助産学特別専攻入学者選抜試験を実施

医療技術短期大学部では、平成16年度専攻科助産学特別専攻の入学者選抜試験を1月9日（金）に実施し、その合格者を1月23日（金）に発表した。

受験者数、合格者数及び入学者数は次表のとおりである。

区 分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
助産学特別専攻	20	136	129	20	20

お知らせ

くすのき絵画大賞

京都大学・京都大学生協では、本学の学生・教職員のみならず、一般の方々にも京都大学に関心を持っていただこうと、広報資料を飾る絵画およびカフェ・レストラン「カンフォーラ」に飾る絵画を広く学内外に募集しました。その結果、短い募集期間にもかかわらず、6歳の方から本学の卒業生の方まで、いろいろな方々から、43点ものご応募をいただきました。どの作品も力作であるうえに、京都大学への想いが感じられるものばかりでした。

尾池和夫総長をはじめ審査委員による厳正な審査の結果、以下のとおり入選作品が決定し、京都大学ホームページにおいて3月12日（金）に発表しました。

なお、応募作品を百周年時計台記念館内の京都大学サロンを会場として、一同に展示します。

テーマ1：京都大学広報資料を飾る絵画

優秀賞

【お名前】	【絵のタイトル】
■ 拝師 暢彦さん	早春の時計台
■ 家邊 住江さん	時計台うらの桜 父の思い出
■ 山田 圭さん	懐かしの時計台

テーマ2：四季京大（正門前カフェ・レストラン「カンフォーラ」の店内に飾る絵画）

カンフォーラ絵画大賞

【お名前】	【絵のタイトル】
■ 齋藤 慶さん	夕焼けの時計台

優秀賞

【お名前】	【絵のタイトル】
■ 河尻 泰一さん	くれなゐもゆる
■ 野村 禮子さん	黄葉
■ 山口 きよ子さん	東南アジア研究センター

奨励賞

【お名前】	【絵のタイトル】
■ 山田 圭さん	農学部門
■ 奥田 勝己さん	明治の面影
■ 中島 雅幸さん	四明館（演習林旧本部事務室）
■ 持元 幸子さん	凜々（りんりん）

総長特別賞

【お名前】	【絵のタイトル】
■ 九ノ里 直希さん	ぼくの大すきなくすの木と京大

テーマ1に10点、テーマ2に33点のご応募をいただきました。テーマ2につきましては、優秀賞に審査員の同数の支持があったため3点（募集時2点の予定でした）を選び、奨励賞を4点（募集時5点）とさせていただきます。

たくさんのご応募、本当にありがとうございました。

Clock Tower Art Gallery「くすのき絵画大賞展」

「くすのき絵画大賞」へご応募頂いた作品を多くのみなさんにご覧いただくため、百周年時計台記念館 京都大学サロンにて下記のとおり Clock Tower Art Gallery「くすのき絵画大賞展」を開催します。

みなさまお誘い合わせのうえご来館ください。

会 期 3月19日（金）～4月19日（月）
場 所 百周年時計台記念館1階 京都大学サロン 観覧無料
観覧時間 9：30～21：00 会期中休館日なし

京都大学未来フォーラム（第1回）

本学と社会との協力・連携を深めるための新しい試みの一つとして、「京都大学未来フォーラム」を開催します。これは、企業や官庁、国際機関、N G O、大学・研究機関、マスメディア、文化・芸術など様々な分野で活躍する本学のO B・O Gを招いて、学生や教職員をはじめ広く一般市民を対象に、講演と意見交換を行おうというものです。平成16年度は月1回程度の開催を予定しています。

第1回目は弁護士・気候ネットワーク代表で、地球温暖化問題に取り組んでおられる浅岡美恵氏をお招きして、以下のとおり開催しますので、多数のみなさんの参加をお待ちしています。

1. 日 時：4月19日（月） 18：00～19：30
2. 場 所：百周年時計台記念館百周年記念ホール
3. プログラム：挨拶 総 長 尾池和夫

講演 弁護士・気候ネットワーク代表
浅 岡 美 恵 氏（70年法学部卒）
「気候変動／地球温暖化を防ぐー未来を築く市民にー」

質疑応答

4. 受 講 者：500名
5. 対 象：学生，教職員，一般市民
6. 受 講 料：無料
7. 申 し 込 み：百周年時計台記念館ホームページよりメールまたは往復はがきにて4月7日（水）までに下記までお申し込みください。
なお、往復はがきによる申し込みについては、「第1回未来フォーラム参加」と明記の上、住所、氏名、年齢、職業を記入し、返信はがきには、必ずご自身の宛先を記入してください。
8. 問い合わせ：〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学百周年時計台記念館事務室
TEL 753-2285
URL <http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kinenkan/index.htm>

編集後記

今回の広報編集専門部会が、新装なった百周年時計台記念館で開かれました。北の端の北部構内にある農学部から、時間ぎりぎりに駆けつけると、東の入り口が工事中でした。そのため、さらに西に廻って時計台の建物にはいると、立派なレストランに入り込んでしまいました。一瞬、河原町かどっかのフランスレストランにでも迷い込んだかとの錯覚に陥ってしまいました。しかし、そこは紛れもなく本部時計台の一角に開店したばかりのレストランでした。京都大学も大きく変わりつつあると言われる所以の一つです。その姿を、この広報を通じて、新年度より時計台記念館から発信していくことになります。目に見えにくい部分での新しい動きもお知らせできるように心がけたいと思っています。（佐々木記）